

長雨、日照不足に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

9 月上旬は前線や低気圧の影響で、県内全域で降水量が多く、日照時間は少なくなりま
した。

令和 8 年 9 月 10 日公表の気象庁の 1 か月予報（9 月 12 日～10 月 11 日）では、降水量は平
年並または多い確率が 40%、日照時間は少ない確率が 40%となっています。

今後も長雨や日照不足が続くことが予測されるため、気象情報に注意するとともに農作
物の管理には十分注意してください。

なお、農作物の技術対策については、以下の事項に留意してください。

【共通事項】

（1）適期防除の徹底

今後の天候の推移に十分に注意し、ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努めま
しょう。

（2）排水対策の徹底

排水溝（明きょ）の再整備を行い、排水対策を徹底しましょう。

1 水 稲

（1）倒伏したほ場では刈り分けを行い、丁寧な収穫作業を行うことで泥の混入が無いよ
う注意しましょう。

（2）刈り取りの適期は、粃の黄化率が 9 0 %程度になった頃からです。ほ場をよく観察
し、適期刈り取りに努めましょう。なお、登熟のバラツキが大きくなる可能性があります
ので、収穫・乾燥・調製は丁寧に行いましょう。

2 大 豆

湿害を防ぎ根の活力を維持するため、降雨によりほ場内に停滞水が発生しないよう明
きょ等による排水対策を徹底しましょう。

3 野 菜

（1）日照不足や低温条件では、トマトの着色不良、きゅうり・さやいんげん等の肥大遅
延が発生しやすく、着果負担からの草勢低下となりやすいため、不良果を早く摘果し
て草勢維持を図りましょう。

（2）長雨による多湿条件では、根が地表近くに張りやすくなるため、排水対策等を徹底
し、湿害の防止に努めましょう。

（3）多湿により病害が発生しやすくなるため、防除を徹底し被害防止を図りましょう。

（4）施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整するととも
に、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材
を開閉しましょう。

4 果樹

- (1) 園地内に滞水がみられる場合には、明きょ、暗きょを確認し、滞水を速やかに排水しましょう。
- (2) 日照不足の条件では、りんごの着色不良が懸念されます。反射シートの敷設や摘葉を計画的に実施し、着色の状況に応じて玉回しを行い、着色促進を図りましょう。
- (3) 日照不足、長雨などの条件下では、病虫害（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるので、発生状況に応じて薬剤散布を実施しましょう。なお、果実の収穫中である場合には、薬剤の総使用回数と収穫前日数に十分注意しましょう。
- (4) モモせん孔細菌病の発生は、秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあります。収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。また、薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、散布のむらをなくしましょう。
- (5) ナシ黒星病の秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出が多くなる時期となります。薬剤散布前には、徒長枝の整理など新梢管理を行い、薬剤の散布むらを無くしましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

5 花き

- (1) 排水対策を徹底するとともに、必要に応じて葉面散布等による追肥を行い、草勢回復を図りましょう。
- (2) 低温・多湿条件下では灰色かび病、きく白さび病等の発生が助長されるので、適切に防除しましょう。また、感染源となるり病葉やり病株を早めに処分するよう心がけましょう。
- (3) 施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行いましょう。
- (4) 施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整するとともに、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉しましょう。

6 飼料作物

- (1) 生育停滞、湿害及び刈遅れ等により、収穫量や品質の低下のおそれがあるため、生育状況に応じた適切な肥培管理、排水対策や収穫調製に努めましょう。
- (2) また、資料作物の収穫が遅れる場合には、添加剤の使用等によりサイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>